

「殺生石」物語考

物語の概略①

藻が七歳の長治元年(1104年)、堀川天皇は、「独り寝の別れ」という題で、殿上人や庶民に、和歌を作って奉るように命じた。しかし、人々は、「独り寝」に別れなどがあるはずはない、きつと天皇の、詠み人の智をお試しになる叡慮だと噂した。しかし、后内侍(后に次ぐ身分)、親王、公卿たちは勿論、世間の誰一人として、歌を奉ることができないまま、日限が迫った。

親孝行の藻は、ある日父行綱に、自分の和歌を献上すれば天皇の目に止まり、必ず、父の勅免(お許し)があると云って、歌奉行への提出を申し出た。行綱は娘の孝心に感激しながらも、天皇の御題を、幼子がどうして

詠むことができよう、そう思つて彼女を諭した。しかし、藻は、御題は決して難しいものではなく、天皇の叡慮に背くような作品ではないからと、父を説得した。



の烏丸光兼卿へ提出され、歌所の内大臣雅実公を経て関白殿下藤原忠実公より、天皇に奉聞される。やがて、藻は内裏に召され清涼殿の縁際に控えた。天皇を中心に、后、内侍、公家、百官がきらびやかに列座する中、歌所の雅実公がおもむろに、声高く、「夜やふけぬ聞のともしび何時か消えてわが嘆きさえ別れてしかも」と、詠吟すれば、忽ち、天皇の叡感浅からず、居合わせた殿上人らも皆感嘆した。天皇は、これも父母の養育によるものと、行綱に勅免の詔があり、従五位下左右衛門尉にも選任せられた行綱はここに、大いに面目をほどこす。

筆者 前那須歴史探訪館 館長

齊藤 宏壽 先生(湯本在住)

今月のひとこと

人の世の悲喜こもごもの一年が
彼方へ過ぐる除夜の鐘の音

かつこう

小さい頃、家の周りがうっすらと雪に覆われると、雪うさぎを作った。積もった雪の真っ白なところだけを集めて形をつくり、庭先の南天の木からちょうどいい大きさの葉と赤い実を選び耳と目をつける。作り方を教えてくれたのは祖母だった▼先月、県保健福祉部が平成28年の県内の健康寿命の推定値を発表した。

単に長寿であるだけでなく、健康的で自立した生活が送れる期間を指し、本町の女性の健康寿命は10年前より2歳延び、84.44歳と県内最長となった。亡くなる直前まで元気で身の回りのことをほとんど自分でやり、93歳の健康寿命を全うした祖母が思い出された▼国も健康寿命の延伸に取り組んでおり「肺炎の予防」もそのひとつとして掲げられている。肺炎死亡者の約97%が65歳以上の高齢者であるこ

とから、肺炎球菌予防接種を推進しており、町でも対象者に接種を呼びかけている(本紙15頁参照)▼南天の赤い実は古来より、咳や呼吸困難などに効果がある生薬として用いられてきた。そして今は原因となる肺炎を予防できる手段がある。自立して年齢を重ねていくために、1本の予防接種によって得ることができ健康を大切にしてほしい。「難を転じて福となす」南天の実を摘む祖母の言葉も思い出した。

こんにちは

赤ちゃん



中川
はるき
遥貴くん
(新黒田)

平成29年
10月10日生

父 貴司さん 母 真弓さん

遥貴くんは…

末っ子長男! 4人のお姉ちゃんに鍛えられ、たくましく育っています。

「こんにちは赤ちゃん」コーナーの写真を随時募集しています。詳しくは総務課広報広聴係(☎72-6901)まで。

町の世帯と人口

(11月1日現在・住民基本台帳)

()の数字は前月比

・世帯数 10,283世帯(+8)

・人口 25,328人(-9)

男12,567人(±0) 女12,761人(-9)

あなたの「声」を聞かせてください

地域の身近な情報や、広報「那須」の感想・ご意見をお待ちしています。お名前と連絡先とともに下記までお寄せください。